

政策評価（令和3年度）

政策評価調書

戦略4 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

幹事部局名	観光文化スポーツ部	評価者	企画振興部長	評価確定日	令和3年8月26日
-------	-----------	-----	--------	-------	-----------

1 政策の目標（目指す姿）

- 本県ならではの魅力が際立つ誘客コンテンツや、観光客のニーズに応える受入環境を充実し、本県が多くの観光客に選ばれることにより、国内外からの誘客を拡大させます。
- 県産食品のブランディングと販路の拡大を進め、特色ある食文化を旅の目的とする集客を拡大するなど、「食」がリードする秋田の活性化を図ります。
- 文化やスポーツによる国内外からの交流人口の拡大を図るとともに、本県の多彩な文化・芸術の継承や、本県スポーツの競技力向上などを進展させます。
- これら活発な交流の基盤となる道路や公共交通など、交通ネットワークの充実にに向けた取組を結実させ、本県の未来を創り・支える交流の一層の拡大を進めます。

2 政策を取り巻く社会経済情勢

- 平成30年5月 ・ 秋田県民会館が閉館した。
- 平成30年9月 ・ J R 東日本の重点販売地域の指定を受けて「秋田県秋の大型観光キャンペーン」を実施した。
- 平成30年10月 ・ 「新・秋田の行事in仙北2018」が開催された。（2016年大館市、2017年大仙市に続いて3度目の開催）
- 平成31年2月 ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックの公認文化オリンピックアードである「東京キャラバンin秋田」が開催された。
- 平成31年3月 ・ 秋田空港に台湾定期チャーター便が就航した。
- 平成31年4月 ・ 令和3年に「東北デスティネーションキャンペーン」の開催が決定した。
- 令和元年7月 ・ 秋田市と共にあきた芸術劇場の建設に着手した。
- 令和2年2月 ・ 「2020 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」が開催された。（平成27年から6年連続開催）
- 令和2年3月 ・ 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、東京2020オリンピック・パラリンピックの延期が決定し、各ホストタウンで予定されていた事前合宿等も延期となった。
- 令和2年5月 ・ 羽田発着枠政策コンテストの結果、大館能代空港東京羽田線（1日2往復運航）において新たに発着枠の配分を受けることが決定した。
- 令和2年6月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、鹿児島県で開催される第75回国民体育大会が令和5年に延期となった。
・ 国の「G o T o トラベルキャンペーン」の開始（7月～）に先立ち、秋田県プレミアム宿泊券を発行した。
- 令和2年12月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、2021 F I S フリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会の中止が決定した。
・ 日沿道「蟹沢 I C ~ 大館能代空港 I C」間が開通した。
- 令和3年2月 ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会（鹿角市）の中止が決定した。

3 政策を構成する施策の推進状況

3-1 施策評価の結果

施 策	施策評価の結果			
	H 3 0	R 1 (H 3 1)	R 2 (H 3 2)	R 3 (H 3 3)
施策4-1 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	B	B	D	—
施策4-2 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	B	B	D	—
施策4-3 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	B	B	D	—
施策4-4 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	C	C	B	—
施策4-5 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備	A	A	A	—
施策4-6 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	B	B	D	—

※施策評価の結果：「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階で判定した結果

3-2 施策評価の概要

【施策4-1】 地域力を結集した「総合的な誘客力」の強化

- 代表指標の達成状況については、①「観光地点等入込客数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、令和元年実績値は35,270千人で2年目標値(34,000千人)の103.7%であったが、2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、移動自粛や外国人の入国制限等の措置により観光入込客数は大きく減少する見込みである。また、成果・業績指標①「延べ宿泊者数」、②「外国人延べ宿泊者数」、③「クルーズ船の寄港回数」も同様に減少する見込みである。
- 一方、秋田県プレミアム宿泊券の発行や、県内旅行商品の造成支援、「#秋田を旅しよう」SNS投稿キャンペーンを行い、県内流動の促進による観光需要の下支えを行った結果、対前年比3割程度まで落ち込んだ宿泊者数を対前年比7割程度まで回復させるなど、一定の効果があった。
- また、秋田県公式観光サイトのリニューアルや、東北デスティネーションキャンペーンにおける本県独自の誘客促進ポスターの制作、重点市場である台湾・中国等でSNSによる情報発信の強化等の取組による新たな外国人のフォロワーの獲得等、アフターコロナを見据えた情報発信に取り組んだ。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

【施策4-2】 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

- 代表指標の達成状況については、①「食料品・飲料等製造品出荷額等」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、令和元年速報値が1,332億円となり、2年目標値(1,290億円)の103.3%の水準に達している。しかし、2年の実績値については、県が各業種に行ったヒアリング等によると、新型コロナウイルス感染症拡大に伴った外出需要の減少などにより、清酒出荷量は対前年比9.1%(元年17,811kl→2年：16,183kl)の減少、お土産品等としての売り上げが大きい稲庭うどんやいぶりがっこも対前年比1割～4割ほど減少しており、2年目標値を下回る見込みとなっている。
- 売上げが落ち込んだ事業者を支援するため、日本酒セットの特別販売会や統一ラベル酒の企画・販売、県内量販店における県産品購入者へ送料の一部を負担するキャンペーンを実施したところ、特別販売会では約2,100万円、統一ラベル酒は約3,000万円を売り上げたほか、同キャンペーンに参加した12社の売り上げが対前年同期比が平均144%、注文件数で141%となるなど、日本酒や県産品の販売拡大につながった。
- また、「あきた発酵ツーリズム」については、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により来客数が前年の約1/3程度に減少しているものの、アフターコロナにおける誘客の増加を見据え、補助金等を通して施設整備及び地域における誘客の取組を推進した。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

【施策4-3】 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

- 代表指標の達成状況については、①「文化事業への来場者数」は「e」判定であり、定量的評価は「E」。
- 代表指標①に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により当初予定していた事業等が実施できず、令和2年度は実績値が54,435人で目標値の465,000人を大きく下回ったものの、必要な感染防止対策を十分に講じた上で実施した「アーツアーツあきた」や「Akita Jam Festival 2020」等は多数の来場実績を上げた。
- アフターコロナを見据え、祭りや伝統行事をはじめとした秋田ならではの文化の県内外への発信の取組を強化し、イベントの中止等を余儀なくされたアーティストや文化団体等が実施した無観客公演の開催の動画制作・配信への助成では、採択された7事業で計約43,000回を超える閲覧実績があり、芸術文化活動の支援につながった。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

【施策4-4】 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

- 代表指標の達成状況については、①「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

【施策4-5】 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

- 代表指標の達成状況については、①「県内高速道路の供用率」は「a」判定であり、定量的評価は「A」。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「A」とする。

【施策4-6】 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

- 代表指標の達成状況については、①「秋田県と県外間の旅客輸送人員数」は「n：未判明」であり、定量的評価は「N」。
- 代表指標①に関しては、令和元年度実績値が5,384千人であり、2年度実績値は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、県外との往来を控える要請がなされたこと等を受け、前年度を大幅に下回ることが想定される。そのような中においても、航空会社に対する着陸料助成や、バス・タクシー事業者等が事業継続を図るための支援を実施し、広域・地域の両面で交通ネットワークを概ね維持したほか、アフターコロナにおける需要の回復を見据えて、秋田・大館能代空港、秋田内陸縦貫鉄道、由利高原鉄道について、感染防止機能を向上させるための施設改修や備品の購入に対する助成等を行い、必要な取組を着実に実施した。
- 成果・業績指標①「一般乗合旅客自動車運送事業免許キロ数」については、乗合バス事業者及び市町村に対する運行費助成や路線再編の支援、地域の関係者が一体となった利用促進への取組により目標を達成している。
- 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

4 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
D	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策評価の結果は、「A」1施策、「B」1施策、「D」4施策（施策の評価結果の平均点は1.83）であり、政策の定量的評価は「D」。 ■ 施策の評価結果や推進状況などを総合的な観点から評価した結果、総合評価は「D」とする。

- 定量的評価：施策評価結果を点数化して平均点を算出し、「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。
 - ・ 施策評価結果の配点 「A」:4点、「B」:3点、「C」:2点、「D」:1点、「E」:0点
 - ・ 判定基準(平均点) 「A」:4点、「B」:3点以上4点未満、「C」:2点以上3点未満、「D」:1点以上2点未満、「E」:1点未満
- 定性的評価：施策の推進状況等から判定する。
- 総合評価：定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

5 県民意識調査の結果

満足度		評価年度(R3)の満足度(割合%)						3期プラン(4年間)の満足度(平均点)			
		十分 (5点)	おおむね 十分 (4点)	ふつう (3点)	やや 不十分 (2点)	不十分 (1点)	わからない ・ 無回答	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)
施策 4-1	国内外から観光客が進んでいる。	1.2	6.2	33.8	21.8	17.6	19.5	2.75	2.55	2.40	
施策 4-2	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	3.0	20.9	42.0	11.0	5.6	17.6	3.11	3.14	3.06	
施策 4-3	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.0	11.9	42.1	19.1	9.8	15.1	2.81	2.79	2.73	
施策 4-4	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。	2.7	17.8	45.1	15.2	7.3	11.8	2.95	2.91	2.93	
施策 4-5	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	1.6	13.7	43.6	18.4	11.5	11.2	2.69	2.78	2.72	
施策 4-6	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	1.2	9.0	38.7	22.7	17.1	11.3	2.41	2.53	2.49	

調査結果の認識、取組に関する意見等

- 各施策に関する質問の5段階評価による満足度の平均点は「2.40」～「3.06」であり、施策4-2に関する質問を除いて「ふつう」の3より低かった。施策4-2の質問に対する満足度が最も高く(3.06(対前年度比△0.08))、施策4-1が最も低い(2.40(対前年度比△0.15))結果となり、前年度と比べ満足度が上がったのが1施策、下がったのが5施策となった。
回答では、全ての質問で「ふつう」が最も多かった。
- 「不十分」又は「やや不十分」を選んだ理由や県に求める取組として、満足度の平均点が最も低かった施策4-1に関する質問については、自然や食べ物の魅力が伝えられる宣伝と利用しやすい観光地としての環境整備をすべきなどの意見があった。
同様に2番目に低かった施策4-6に関する質問では、県内市町村間の公共交通機関の利便性が悪いなどの意見があった。

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

6 課題と今後の対応方針

施策	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
4-1	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、県内観光産業は観光客の急激な減少や旅行者の観光に対する意識の変化への対応を迫られるなど、大きな影響を受けている。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.40と最も低く、自然や食べ物の魅力を伝えられる宣伝と利用しやすい観光地としての環境整備をすべきなどの意見があった。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の収束状況を見極めながら、県内流動や県外に向けた誘客を展開するとともに、ウィズ・アフターコロナに対応する本県の特徴ある体験型コンテンツの発掘・磨き上げや商品化支援を行う。</p> <p>● SNSや各種メディアを活用し、秋田の多彩な魅力を積極的に発信するほか、Wi-Fi整備など滞在環境の充実により、旅行者の満足度向上に資する受入態勢を強化していく。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-2	<p>○ 「あきた発酵ツーリズム」の体験型観光コンテンツは徐々に整備されつつあるが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で拠点施設への来客が伸び悩んでいる。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の収束後に向けて、整備した拠点施設を中心に発酵ツーリズムのHP等での発信を強化していく。また旅行商品造成のために旅行会社との連携を強化する。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-3	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした本県ならではの文化の発信が十分に進んでいない。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により大規模な公演等が開催できない芸術文化事業について、実際に秋田ならではの文化に触れることができない県内外の人々に対して動画を配信するなど、様々な手法により本県文化の国内外への積極的な発信を進める。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-4	<p>○ 少子化によりジュニア層の競技人口が減少している中、指導者の不足等により競技能力の高い小中学生が県外校へ進学している。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 競技力向上連絡協議会の中に3名の外部有識者を含む強化策検討部会を設置し、これまでのジュニア層の強化策を抜本的に見直し、「チームAKITA強化・育成システム」を立ち上げる。また、競技団体が主体となり、学校の枠を越えて秋田県全体の競技力向上を図るとともに優秀な指導者を養成することで、小中学生の県外流出を防ぐ。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-5	<p>○ 高速道路の開通見通しが一部公表されていない区間があり、企業誘致や物流、観光振興等への影響が危惧される。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 関係機関との連携を強化し、高速道路の開通見通しについて、未公表区間を早期に公表するよう国に対して要望していく。</p> <p style="text-align: right;">など</p>
4-6	<p>○ 人口減少や運転手不足に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等により、住民生活の基盤となる地域公共交通の維持・確保が一層困難になっている。</p> <p>● 県民意識調査の結果では、満足度の平均点が2.49と2番目に低く、県内市町村間の公共交通機関の利便性が悪いなどの意見があった。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>○ 地域の実情を踏まえ、路線バスやコミュニティ交通のほか、住民が主体となる自家用有償運送など様々な交通モードを組み合わせて、持続可能な地域交通の形成に取り組む。</p> <p>● 市町村を跨いで運行する広域バス路線について、他の交通機関との接続を意識したダイヤ編成とするなど、市町村や交通事業者と連携して、利用者目線による各地域の移動ニーズに即した地域公共交通ネットワークの改善を図る。</p> <p style="text-align: right;">など</p>

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調書を参照

※●は県民意識調査結果に関する課題と今後の対応方針

7 政策評価委員会の意見

自己評価の「D」をもって妥当とする。
